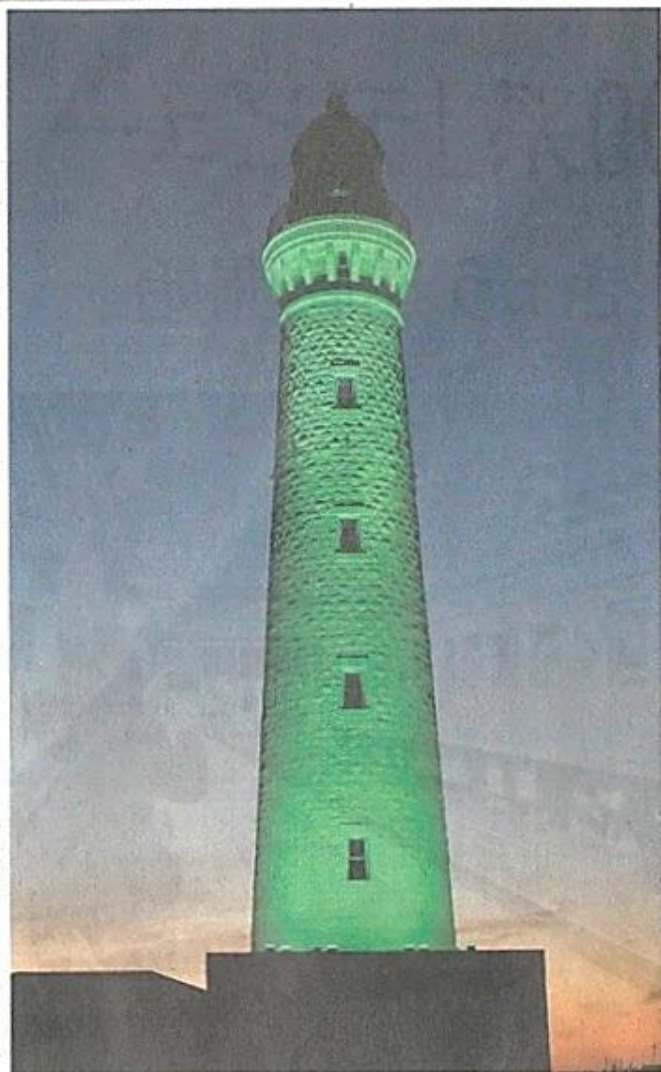


出雲日御碕灯台緑映える

世界緑内障週間 各地でライトアップ

失明の原因になる緑内障に合わせた「ライトアップ」などが緑色の光に照らされての早期発見を促そうと、世界で「ロンググリーン運動」の一環として、山陰両県の公共施設などで、山陰両県の公共施設など、緑内障は日本人の中途失



緑に浮かび上がった出雲日御碕灯台＝出雲市大社町日御碕

出雲石見鳥取

題字

渡邊 千咲
(大田二中2年)

明原因の第1位で、強い近視や高齢などの理由で徐々に視野が狭まるという。ただ、初期の自覚症状がほとんどなく、早期発見のための検査が重要とされる。

ライトアップは日本緑内障学会が2015年に始め、今年は国内外約1500カ所、山陰両県では島根35カ所、鳥取5カ所を実施している。出雲市大社町日御碕の出雲日御碕灯台では、日没後に白亜の灯台が緑色に浮かび上がった。15日まで毎日午後6時10分から同8時まで行う。

運動の実行委員長を務める島根大医学部付属病院(出雲市塩冶町)の谷戸正樹教授(53)＝眼科＝は「ライトアップを通じて多くの人に緑内障を知ってもらい、40歳を超えたら検査を受けてほしい」と呼びかけた。

(佐藤一司)